

インマヌエル中目黒キリスト教会 2014年11月23日聖日礼拝

「列王記、クリスマスへの目線」

第一列王記19章 1節-21節

河村従彦牧師



聖書朗読

旧約聖書

第一列王記19章 1節-21節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp567~/第三版の聖書はp619~

- 1 アハブは、エリヤがしたすべての事と、預言者たちを剣で皆殺しにしたこととを、残らずイゼベルに告げた。
- 2 すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」
- 3 彼は恐れて立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。ユダのベエル・シェバに来たとき、若い者をそこに残し、

4 自分は荒野へ一日の道のりを入れて行った。彼は、えにしだの木の陰にすわり、自分の死を願って言った。「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。」

5 彼がえにしだの木の下で横になって眠っていると、ひとりの御使いが彼にさわって、「起きて、食べなさい」と言った。

- 6 彼は見た。すると、彼の頭のところに、
焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の
入ったつぼがあった。彼はそれを食べ、
そして飲んで、また横になった。
- 7 それから、主の使いがもう一度戻って来
て、彼にさわり、「起きて、食べなさい。
旅はまだ遠いのだから」と言った。
- 8 そこで、彼は起きて、食べ、そして飲み、
この食べ物に力を得て、四十日四十夜、
歩いて神の山ホレブに着いた。

- 9 彼はそこにあるほら穴に入り、そこで一夜を過ごした。すると、彼への主のことがあった。主は「エリヤよ。ここで何をしているのか」と仰せられた。
- 10 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」

- 11 主は仰せられた。「外に出て、山の上で主の前に立て。」すると、そのとき、主が通り過ぎられ、主の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。
- 12 地震のあとに火があったが、火の中にも主はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。

13 エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て、ほら穴の入口に立った。すると、声が聞こえてこう言った。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」

14 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」

- 15 主は彼に仰せられた。「さあ、ダマスコの荒野へ帰って行け。そこに行き、ハザエルに油をそそいで、アラムの王とせよ。
- 16 また、ニムシの子エフーに油をそそいで、イスラエルの王とせよ。また、アベル・メホラの出のシャファテの子エリシャに油をそそいで、あなたに代わる預言者とせよ。
- 17 ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し、エフーの剣をのがれる者をエリシャが殺す。

- 18 しかし、わたしはイスラエルの中に
七千人を残しておく。これらの者はみな、
バルにひざをかかめず、バルに口づけしな
かった者である。」
- 19 エリヤはそこを立って行って、
シャファテの子エリシャを見つけた。
エリシャは、十二くびきの牛を先に立て、
その十二番目のくびきのそばで耕していた。
エリヤが彼のところを通り過ぎて自分の外套を
彼に掛けたので、

20 エリシャは牛をほうっておいて、
エリヤのあとを追いかけて行って言った。
「私の父と母とに口づけさせてください。
それから、あなたに従って行きますから。」
エリヤは彼に言った。
「行って来なさい。私があなたに何を
したというのか。」

21 エリシャは引き返して来て、一くびきの牛を取り、それを殺し、牛の用具でその肉を調理し、家族の者たちに与えてそれを食べさせた。それから、彼は立って、エリヤについて行って、彼に仕えた。

説教

「列王記、クリスマスへの目線」

第一列王記19章 1節-21節

河村従彦牧師



序 似ている2つの歴史書

列王記 ～北イスラエルと南ユダの両方が記載

歴代誌 ～南ユダ（正統王朝）だけが記載

ヘブル語の聖書の順序

キリスト教会の聖書は、マラキ書が最後

ヘブル語の聖書は、歴代誌が最後

列王記の内容

- 第一 ソロモンの治世
分裂王国時代の南北王朝
- 第二 //
残されたユダ王国

構成から見えること

- 1 王の列伝であるが、バランスが悪い
- 2 この2人の預言者を記録することが目的
- 3 王が治める時代から、預言者主義の時代の到来

1 2人の預言者の生涯

A エリヤ

1 人となり

2 主な出来事

17章 「神さまの養い ~ケリテ川、
ツアレファテのやもめ」

18章 「カルメル山上でのバアルの
預言者との対決」

19章 「落ち込むエリヤ」

B エリシャ

1 人となり

2 背景 ～北王国イスラエル

3 幅広い活動
18のエピソード
ナアマンの出来事

C エリヤの扱い

1 マラキの評価

2 旧新約中間時代

3 新約聖書

エリヤは30回ほど言及

D エリヤとエリシャの比較

【エリヤ】

新約における高い評価

30回

【エリシャ】

新約では言及
されない

ルカ4:27のみ

II エリヤの姿

A 背景 ～バアルとの戦いの後

B 心の姿勢

1 恐怖

2 疲れ

3 やりましたという自負

Q こういう姿が新約のモデルなのか

C 神さまの恵みに触れる

III 旧約聖書の視点の転換点

～クリスマス目線

A 王さまの世界から飼い葉桶の世界へ

B 「やる」から「ある」の世界へ

C 取り引きから無条件の世界へ

D 自分が満足することから人を活かす
ことへ